

# のぞみ学級

## 自立活動

単元名 じぶんのきもちをあらわしてみよう

令和6年 7月 8日(月) 5校時

児童 のぞみ学級 1年生 1名 3年生 2名

場所 のぞみ学級

授業者 T1 大島 丈

### 1、児童の実態

本学級には、認知等の発達には課題があるが、日常的なことを色々と話せる児童や語彙数が少なかったり、発音が不明瞭だったりして言葉によるコミュニケーションに課題がある児童が在籍している。また、相手の表情や気持ちを考えずに言葉を発する、自分の気持ちを上手く表現できないなどといった面も全体的に見られる。在籍する3名は楽しく仲良くしている場面が多いが、ふとした時に暴言を言うってしまうこともある。また、他の児童とトラブルになることもある。気持ちを表す言葉を知る、表情から気持ちを読み取る、自分の気持ちを表現するといった活動を通して、コミュニケーションの基礎的な力をつけていきたい。



### 2、単元の目標

- 友達や教師の表情から気持ちを読み取ることができる。
- ロールプレイ的な活動(※)を通して自分の気持ちを表現することができる。

表情から気持ちを読み取ったり、ロールプレイを通して自分の気持ちを表現したりすることで、他者の意図や感情の理解が進み、学校生活を良好に過ごしていくことができると考える。

本単元では、気持ちを表現することの一步目として、簡単な気持ちの言葉の種類について知り、ロールプレイを通して表現することで、普段の生活の中でも自分の気持ちを表現することができるようにしていきたいと考えている。

#### 【自立活動の内容項目】

3. 人間関係の形成

6. コミュニケーション

(2) 他者の意図や感情の理解

(1) コミュニケーションの基礎的能力

(2) 言語の受容と表出

### 3. 研究とのかかわり

#### 仮説1 <個に応じた課題設定>

- ・発達の差が大きいので、それぞれの実態に応じ、簡単すぎず、難しくなりすぎない課題を設定するようにする。

【5. 個別の実態に詳細を記載】

#### 仮説1 <個に応じた手立ての工夫>

- ・言語発達の段階に応じて、同じ活動内容でも、言葉を発する、書く、選択する、ジェスチャーで示す、表情で示す、色で示すなど、多様な手立てを用意する。

【5. 個別の実態に詳細を記載】

#### 仮説2 <自己肯定感を高める人と関わる学習活動>

- ・実際に言葉のやり取りや表情のやり取りをすることで関わり方や受取り方を学ぶ。また、やり取りの中で友達の良かった所を出し合うことで自己肯定感の高まりにつなげる。

#### 仮説2 <自己肯定感を高める教師の関わり方>

- ・良かった点を具体的に褒める。
- ・言葉とともにジェスチャーで示すなど、視覚的にも良かったということが分かるようにする。

### 4、単元計画

時数	学習活動	目標
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口の体操</li> <li>・単元の流れを知る</li> <li>・知っている気持ちを表す言葉を挙げ、共有する</li> <li>・示された表情と同じ表情をする</li> <li>・気持ちを表す言葉と表情を対応させる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちを表す言葉がわかる</li> <li>・気持ちを表す言葉と表情を対応させることができる</li> </ul>
2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口の体操</li> <li>・前時の確認</li> <li>・表情から気持ちを読み取ることができる。</li> <li>・ロールプレイを通してどんな気持ちになったのかを表現する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達や教師の表情から気持ちを読み取ることができる</li> <li>・ロールプレイを通して自分の気持ちを表現することができる</li> </ul>

5、個別の実態・目標・手立て・評価

児童	児童の実態	本時の個別目標	個別の手立て	個別目標の評価

## 6. 本時の授業

### (1) 本時の目標

- ・友達や教師の表情から気持ちを読み取ることができる。
- ・ロールプレイ的な活動を通して自分の気持ちを表現することができる

### (2) 展開

	学習内容	教師の関わり	◆支援 □評価 ☆T2の動き
導入	1. 口の体操を行う ①舌の前後ろ体操 (舌を前後に動かす) ②舌の右左体操 (舌を左右に動かす) ③ホットケーキの舌 (舌を5秒ほど止める) ④あいうえお体操 (大きな口であ・い・う・え・おを言う)  2. 単元・本時の流れ・課題を確認する。	教師が見本を示しながら行い、正しい舌の動かし方ができているかを確認する。	◆発音が不明瞭な児童がいるため、口の体操を行い、舌を思った通りに動かせるように練習を重ねる。 ◆口と舌をモデル化したものを使い、正しい舌の動きがイメージできるようにする。  ◆口の形を果物で示したものを使い、正しい口の形をイメージしながら発音できるようにする。  ◆視覚的に単元・本時の流れを示し、児童が今何をする場面なのかを理解できるようにする。
	せんせいや ともだちの きもちを よみとろう じぶんの きもちを ことばや かおで あらわしてみよう		
展開	3. 気持ちを表す言葉を確認し表情を対応させる。  4. 表情からどんな気持ちなのかを当てるクイズをする。 ・児童が指定された気持ちの表情をし、それを見て他の児童がどんな気持ちかを当てる。  5. 学校生活でよくある場面を設定し、自分で言葉や表情に出し、気持ちを表現する。	ワークシートを用意し、前時の内容を復習する。  気持ちと表情を表すカードを使い、言葉と表情を対応させる。 教師が見本を示し、どのようにクイズを行うのか確認する。	◆名前や日付を書くことが難しい児童にはなぞれるように線を書く。 ◆言葉で表すことが難しい児童に関しては、表情を書いたカードや漫符を使って気持ちを確認する。 ◆「たのしい」と「うれしい」など言葉のニュアンスに多少のズレがあっても許容をする。 ◆どんな漫符が合うか質問するなどして、表情と気持ちが一致できるようにする。  <input type="checkbox"/> 友達や教師の表情から気持ちを読み取っている。(観察)  <input type="checkbox"/> ロールプレイ的な活動を通して自分の気持ちを表現している。(観察)
終末	6. 本時の振り返りをする。 ・本時の振り返りを選択肢から選ぶ。 ・表情やジェスチャー、言葉でも表現する。	ワークシートを使い本時の振り返りを行う。  本時の学習がどのような時に必要かを確認する。	◆言葉や表情で表現することが難しい児童にはカードやジェスチャーで表現をさせるようにする。  ◆選択肢にはマイナスのイメージにならないものを用意するようにする。

### (3) 本時の評価 (評価方法)

- ・友達や教師の表情から気持ちを読み取っている。(観察)
- ・ロールプレイ的な活動を通して自分の気持ちを表現している。(観察)

## 7. 板書計画

単元の流れ	本時の流れ	表情のカード
		気持ちの言葉カード